常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅡ

令和３年４月１６日(金)

◇ 学校の運営方針　と　とある授業　の関係

新年度初日の４月１日。学校運営について自分から職員に伝えた方針は２点。

〇校歌２番の歌詞にある、児童の【正しく鍛える身と心】の支援に努める。

〇【正しく鍛える身と心】の手段として、【あたりまえのことが（を）あたりまえにできる】よう児童の支援に努める。

我々教員が行うべき教育とは、児童の「指導」よりはむしろ児童の「支援」。つまり、「方向づけ」や「導き」である。
児童が意識して行い続けることができるよう仕向けることで、意識しなくてもあたりまえのようにできる本物の力を備えさせることにある。この力が基盤となり、成長過程の中で自主性を育み、自立力を高めていくことにつながってゆく。

６日（火）の始業式。「正しく鍛える身と心」「あたりまえをあたりまえに」については、年度最初の校長の話として式辞の中で児童にも伝えた。

翌日の７日（水）。校内を巡視していると、ある学級では、「学級のあたりまえ」について話し合っていた。児童から考えが出され、いくつかある中から「学級のあたりまえ」を絞り込んでいく。いわゆる「学級目標」であるが、これを【学級のあたりまえ】と呼称を変え、位置付けてくれたことが嬉しい。
こちらの考えをくみ取ってくれたことも嬉しいが、それよりも自分の話を利用してタイムリーに子供に投げかけ、子供の心を耕してくれたことが嬉しい。

校長と担任。立場の異なる大人から、同じ話の切り口の異なる働きかけは、話の鮮度も新しく、刺激も異なるため、子供の心を大きく揺さぶる。つまり、成長へのきっかけとなる。さらに、そこに子供同士の話し合いが加わると、発言に責任が生じることから、深く、しっかり考える行為が発生する。加えて、自分が深く、しっかり考えることにより、他の考えや意見にもじっくり耳を傾けることができる。
「あたりまえ」が何になったのかはわからない。何でもよいのだ。
「学級のあたりまえ」を考えたことに価値がある。「正しく鍛える身と心」につながってゆく目に見えない価値だ。

あとは実践。
皆で考えたことは、一人で考えた時以上の頑張りが効くもの。楽しみである。